

平成 2 9 年度

本明川学識者懇談会

ほんみょう
本明川総合水系
環境整備事業

- ① 事業採択後 3 年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後 5 年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化
後 3 年経過した事業
- ④ 再評価実施後 3 年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等
により再評価の実施の必要が生じた事業

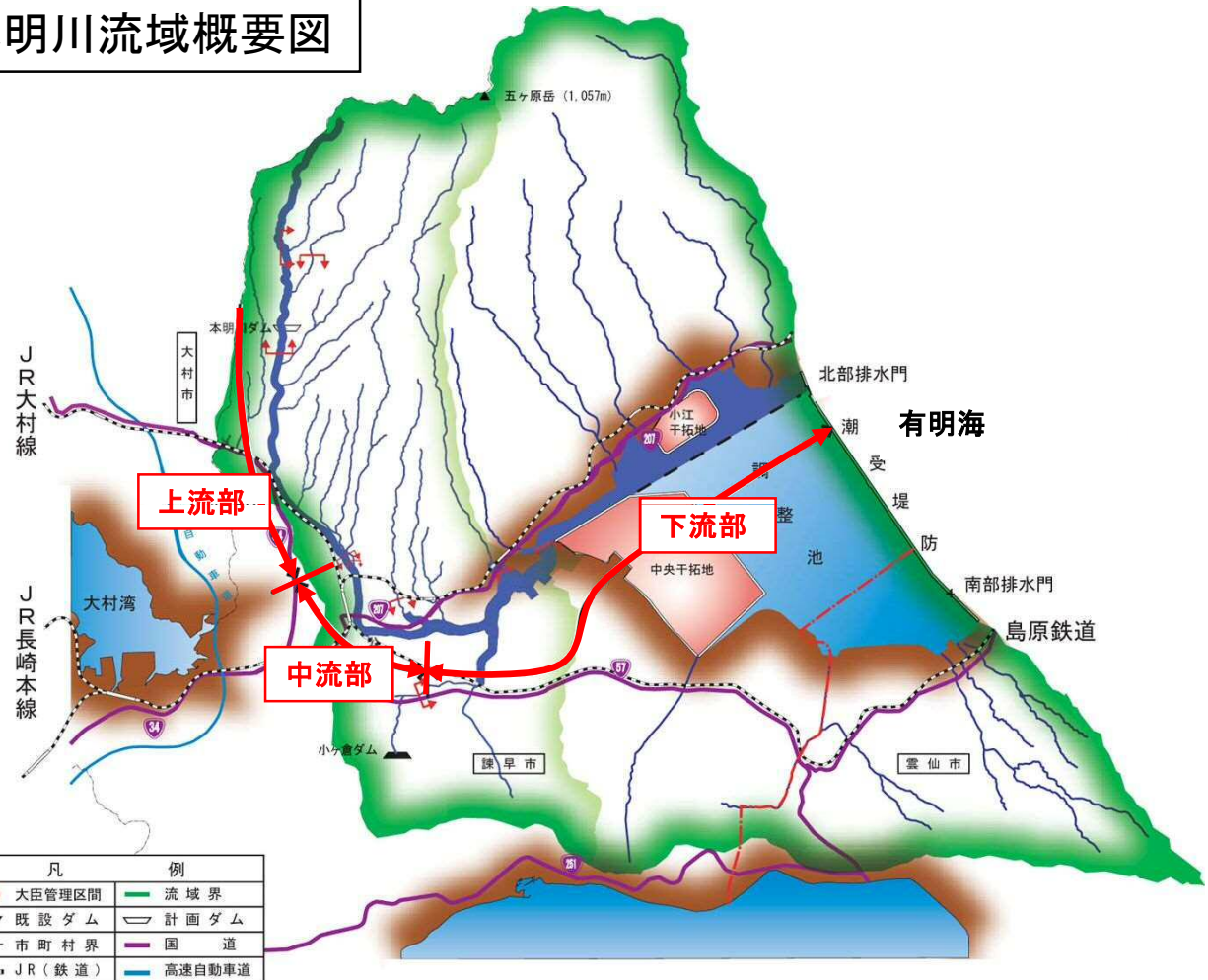


1. 本明川流域の概要〔本明川の概要と特徴〕

本明川の概要

流域面積 : 249km²
幹川流路延長 : 28km
流域内市町村 : 2市
流域内人口 : 約9万人
(平成22年国勢調査)

本明川流域概要図



■各区間の特徴

<上流部>

・上流部には、景勝地の富川溪谷があり、四季それぞれの味わいを持つ溪谷は、自然探勝や行楽に訪れる人々の憩いの場となっている。

<中流部>

・中流部は、諫早市街地を流れ、特殊堤区間の水辺には河川公園や遊歩道が整備され、沿川住民にとって憩いの場、安らぎの場であるとともに、散策や水遊び、釣り、各種イベント(諫早・川まつり、魚のつかみどり大会等)に利用され、親しまれている。

<下流部>

・下流部は、干陸化した高水敷に植生が繁茂している。仲沖地区には、諫早小学校があり、中央ふれあい広場、平成11年度には桜づつみが整備され、堤防天端はサイクリングロードとして利用されるなど、市民の憩いの場として利用されている。
諫早湾干拓事業により出現した広大な自然干陸地では、フラワーゾーンが整備され地域住民が主体となって菜の花やコスモスを植栽しており、開花の時期には県内外から多くの見物客が訪れている。

1. 本明川流域の概要〔本明川の利用状況〕

＜本明川の利用状況＞

- ◆本明川周辺の河川敷や水辺では、地域住民の憩い、安らぎの場として散策や水遊びなどの日常的な利用のほか、「諫早万灯川まつり」、「諫早のんのこウオーク大会」、「本明川魚つかみ取り大会」等のイベントや近隣小学校の環境学習などに利用され、親しまれている。



1. 本明川流域の概要〔本明川水系の目標〕

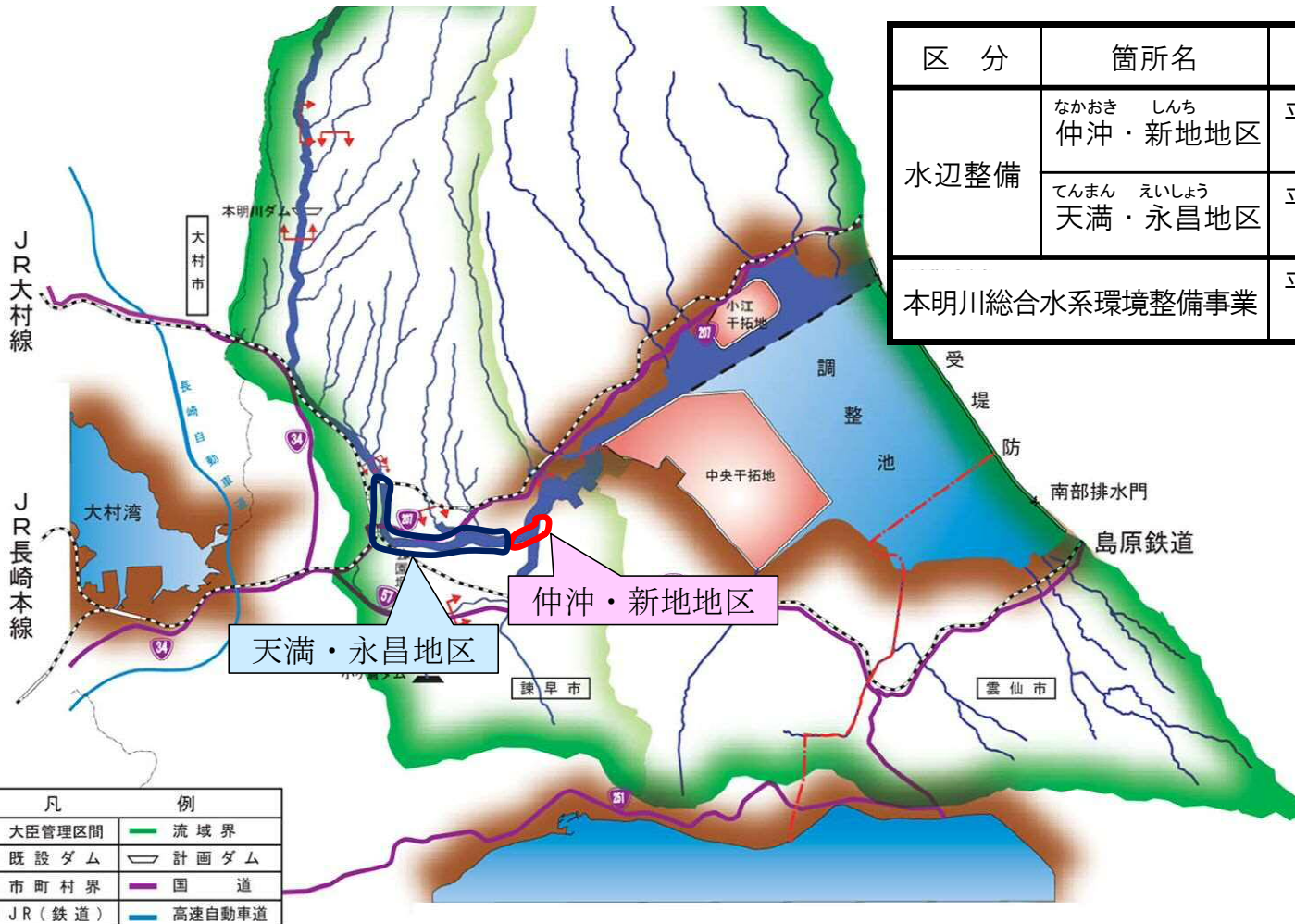
＜河川環境の整備と保全に関する目標＞（本明川水系河川整備計画抜粋）

- ◆ 本明川では、河川空間の利用に関し、自然と共に生きて来た歴史や文化等の地域特性を踏まえ、自然との調和を配慮しつつ環境教育の場など多様な利用ができるよう、人々が川と触れ合い、親しめる、潤いのある水辺空間の整備を目指すものとしている。
- ◆ 河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を目指し、上流部などでは現在の良好な河川環境の保全を目指すとともに、下流部では鳥類や哺乳類等の営巣・生息環境の保全・再生を目指すこととしている。
- ◆ 中流部においては、周辺の都市景観、天満公園、樹木、水辺等の景観特性を生かした河川景観の形成とゆとりと潤いのある快適な河川空間を創出するために、河川管理施設等の修景整備に努めます。
- ◆ 水質に関しては、現在の良好な水質を維持するとともに、面源負荷に対しても関係機関と調整・協議して、流域全体で更なる水質の改善を目指すこととしている。

1. 本明川流域の概要〔本明川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

◆今回は、現在事業を実施中の天満・永昌地区の水辺整備について事業評価(再評価)に諮るものである。



区分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	なかおき しんち 仲沖・新地地区	平成17年度 ～平成22年度	完了箇所 (報告済み)
	てんまん えいしょう 天満・永昌地区	平成25年度 ～平成32年度	継続箇所
本明川総合水系環境整備事業		平成17年度 ～平成32年度	

凡	例
	大臣管理区間
	流域界
	既設ダム
	計画ダム
	市町村界
	国道
	JR(鉄道)
	高速自動車道

1. 本明川流域の概要〔継続箇所地域の取り組み状況〕

＜継続箇所地域の取り組み状況＞

- ◆ 諫早市では、平成34年の九州新幹線(西九州ルート)の開業(目標)に向け、**本明川沿いを安全に楽しくめぐることができる歩行者ネットワークの確保**などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備、中心市街地活性化等を進めている。
- ◆ 天満・永昌地区は、本明川中流の諫早市中心市街地に位置し、沿川住民の憩い、安らぎの場であるとともに、散策や水遊びなどの日常的な利用、**諫早市で開催される万灯川祭りなどのイベントに利用**され、多くの人々に親しまれている。



諫早駅周辺整備基本構想図 出典:「諫早駅周辺整備基本構想(諫早市)」

2. 事業の必要性等〔本明川総合水系環境整備事業の概要〕

＜継続箇所の概要（天満・永昌地区）＞

1) 事業の必要性等

- ◆当該地区は諫早市中心市街地に位置するものの、河川敷に降りるための階段が急勾配であること、一連区間において管理用通路が整備されていないことから、安全に散策できない状況であり、地域住民から安全で安心して利用できる水辺空間の整備が強く望まれている。

【航空写真】



【現地の状況】



整備されていない管理用通路



急勾配の階段

- ◆天満・永昌地区に位置する本明川の水辺空間を活かして管理用通路及び階段を整備することで、地域の活性化や安全安心に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図ることが可能となる。

2. 事業の必要性等〔本明川総合水系環境整備事業の概要〕

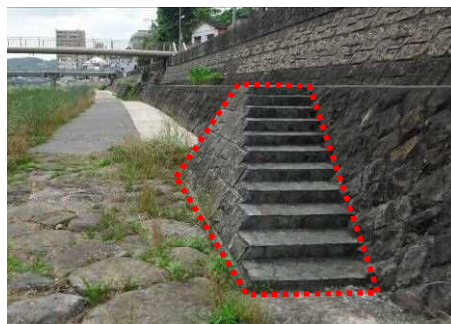
2) 事業の概要・目的

◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、管理用通路や管理用階段、護岸(緩傾斜)等を整備する。

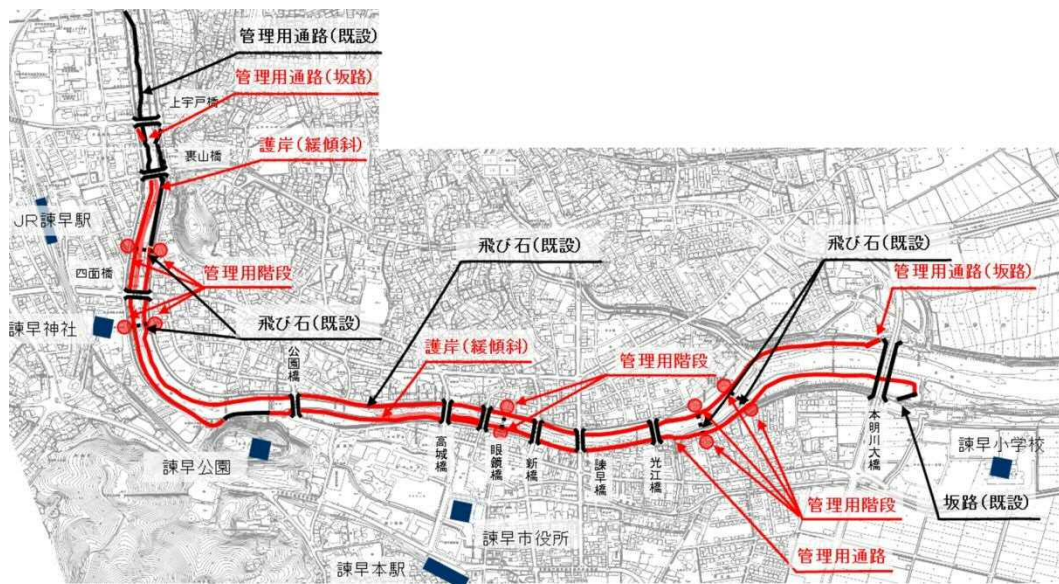
【整備状況】



管理用通路



管理用階段



【概要】

位置	本明川3k200～6k200
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、管理用階段、護岸、モニタリング調査
事業費	6.1億円
整備完了年	平成29年度
事業期間	H25～32年度

【工程表】

工種	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
管理用通路	■	■	■	■				
管理用階段	■	■	■	■				
護岸					■			
モニタリング調査						■	■	■

2. 事業の必要性等〔本明川総合水系環境整備事業の概要〕

3) 事業の推進体制

- ◆平成24年4月から地域住民や学識者、諫早市、国土交通省等から構成される「本明川河川利用懇談会」を設立し、整備内容や河川空間利用者の安全性の向上等、様々な議論を経て実施している。
- ◆整備箇所においては、「本明川河川利用懇談会」等を通して、地域の活性化や取り組み、利用者の安全や維持管理等に関する協議を行っており、引き続き地域の協力体制が見込まれる。



「本明川河川利用懇談会」会議状況



「本明川河川利用懇談会」現地視察状況

3. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成27年度)	今回評価時 (平成29年度)	変更理由
総事業費	約14.5億円 仲沖・新地地区:約8.4億円 天満・永昌地区:約6.1億円	約14.5億円 仲沖・新地地区:約8.4億円 天満・永昌地区:約6.1億円	天満・永昌地区 のモニタリング調 査追加及び事業 期間延伸に伴う 変更
整備完了年	平成29年度	平成29年度	
B/C	1.6	1.6	
B(便益)	31.4億円	34.4億円	
C(費用)	20.0億円	20.9億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

3. 前回評価時からの変化

(1) 天満・永昌地区におけるモニタリング調査の追加

- ・散策路整備は、**全長約6kmの全体を完成**(H29.3月末時点)させ、日常的な散策や水遊び、本明川を軸とした多数のイベント開催などで多くの方々に利用されている。
本明川の河川空間利用者数は、平成15年度から平成26年度の10年間に、**年間約7万4千人から約15万人へ倍増**した。散策路が完成し、さらなる利用者の増加が期待されることから、事業期間を延伸して、モニタリング調査により利用状況の把握を行う。



4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

<費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益B	費用C	B/C
全事業	14.5億円	—	34.4億円	20.9億円	1.6
完了箇所	8.4億円	—	16.6億円	13.6億円	1.2
水辺整備	8.4億円	—	16.6億円	13.6億円	1.2
仲沖・新地地区	8.4億円	高水敷整正、管理用通路、 護岸、水制	16.6億円	13.6億円	1.2
継続箇所	6.1億円	—	17.8億円	7.3億円	2.4
水辺整備	6.1億円	—	17.8億円	7.3億円	2.4
天満・永昌地区	6.1億円	管理用通路、管理用階段、 護岸、モニタリング調査	17.8億円	7.3億円	2.4

	アンケート 実施時期	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計対象 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
仲沖・新地地区	平成20年度	1,050	241	半径10km圏内	28,095	174
天満・永昌地区	平成24年度	1,600	284	半径10km圏内	35,684	194

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆天満・永昌地区においては、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成25年度に事業に着手し、平成29年度に整備を完成させる見込みである。平成30年度以降は、モニタリング調査を実施し、平成32年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆天満・永昌地区では、平成24年4月より地域住民や諫早市、国土交通省等により構成された「本明川河川利用懇談会」が継続的に開催されるなど、地域の協力体制が整備されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆天満・永昌地区の整備内容については、計画段階から「本明川河川利用懇談会」において協議を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっている。
- ◆諫早市は、新幹線効果を更に高めるため、まちづくりを具体化する「諫早地域活性化検討委員会」を立ち上げ議論しており、事業の見直し等の必要があれば河川管理者としても新たな事業展開に対して積極的に支援していく。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年、労務単価等の上昇によるコスト増の可能性があるが、新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

6. 対応方針(原案)(案)

- ◆諫早市では、隣接する諫早駅周辺において、本明川沿いを安全に楽しくめぐることができる歩行者ネットワークの確保などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備や中心市街地活性化等を進めており、天満・永昌地区における安全で安心して利用出来る河川空間の整備を強く要望されている。このため、国交省では管理用通路、管理用階段、護岸等の環境整備事業を行うものである。
- ◆平成24年4月から地域住民代表、諫早市、国土交通省等が参加する「本明川河川利用懇談会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、諫早市により実施するものとされた。以上により、地域の協力体制が整っている。
- ◆事業を実施することにより、安全で安心な水辺空間の形成が期待でき、事業の費用対効果も十分見込まれることから、引き続き事業を継続することとしたい。